

経済指標

1. 経済指標で見る「地域経済情勢」

◆日本経済（内閣府「月例経済報告」[2024年11月]）

景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している

※ 2024年8月に1年3か月ぶりの判断引き上げ

個人消費 ※（ ）内は、2024年8月以降の判断変化

- ・一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる（8月に判断引き上げ）

企業活動

- ・生産は、このところ横ばいとなっている（10月に2年8か月ぶりの判断引き下げ）
- ・業況判断は、改善している（変化なし）
- ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる（変化なし）

◆和歌山県経済◆

和歌山県経済は、個人消費・企業活動ともに弱さが見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額（10月）は、2か月連続で前年を下回った
- ・新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、2か月ぶりに前年を下回った
- ・新設住宅着工戸数（10月）は、4か月連続で前年を下回った

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、2か月ぶりに上昇した
- ・公共工事請負金額は、4月～10月累計で前年同期比7.9%増となっている
- ・TDB景気DI（10月）は、2か月ぶりに上昇した

◆大阪府経済◆

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

個人消費

- ・百貨店・スーパー販売額は、増勢基調を維持するも、増加の勢いは鈍化
- ・新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、2か月連続で前年を上回った
- ・新設住宅着工戸数は、1月～10月累計で前年同期比2.3%減となっている

企業活動

- ・鉱工業生産指数（季節調整値）は、全国に比べて低い水準にある
- ・公共工事請負金額は、4月～10月累計で前年同期比12.0%増となっている
- ・TDB景気DI（10月）は、4か月ぶりに下降

経済指標

2. 経済指標で見る「和歌山県経済」

和歌山県経済は、個人消費・企業活動ともに弱さが見られる

和歌山県に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額（10月）は、2か月連続で前年を下回った。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、2か月ぶりに前年を下回った。
- 新設住宅着工戸数（10月）は、4か月連続で前年を下回った。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値、9月）は、2か月ぶりに上昇した。
- 公共工事請負金額は、4月～10月累計で前年同期比7.9%増となっている。
- TDB景気DI（10月）は、2か月ぶりに上昇した。

《その他》

- 消費者物価指数（和歌山市、10月）は、総合、コアコアCPIともに上昇。
- 有効求人倍率（10月）は、前月から0.02ポイント下降
- 家計消費支出（除く住居等、9月）は、4か月ぶりに前年を下回った。

和歌山県の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

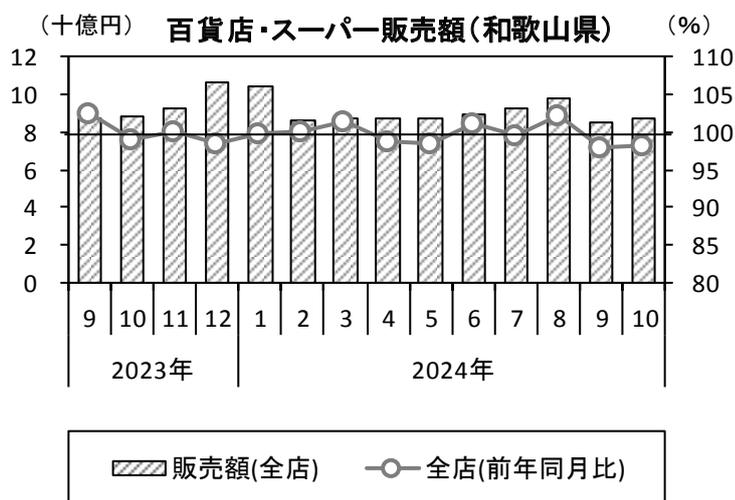
		2023年				2024年									
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	●	○	●	●	-	○	●	●	○	●	○	●	●
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	○	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●
	新設住宅着工戸数	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●	●	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	●	●	●	○	●	○	●	●	○	○	○	●	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	●	○	●	●	○	○	●	○	○	●	○	●	○	
	公共工事請負金額	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●	○	○	○	●
	TDB景気DI ※前月比	○	●	○	●	●	-	○	○	●	●	●	○	●	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	●	○	○	●	○	●	○	○	○	●	○	○	●	○
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	●	●	●	●	●	-	●	●	●	-	○	○	-	-

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額（10月）は、前年同月比1.8%減となり、2か月連続で前年を下回った。近鉄百貨店和歌山店の販売額（10月）についても、前年同月比6.7%減となっており、4か月連続で前年を下回っている。例年に比べて気温の高い日が続ぎ、秋冬向けの衣料品・食料品販売が低迷したものと考えられる。

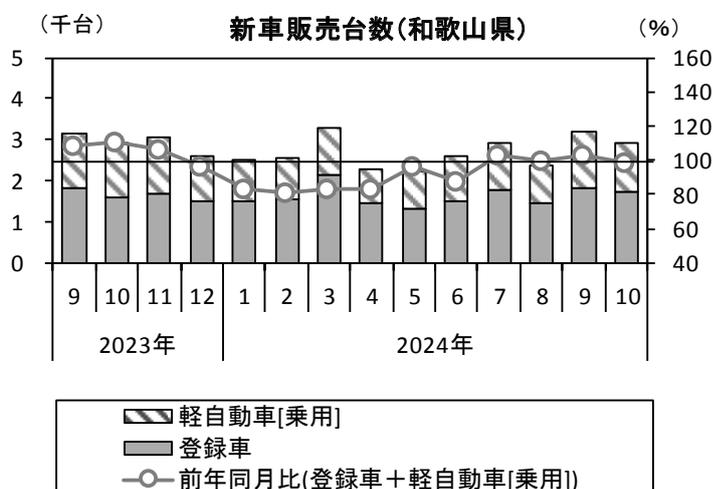
また、毎月勤労統計調査（和歌山県）によると、物価上昇の影響もあり、実質賃金は低下が続いており、家計の節約志向が高まる懸念がある。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

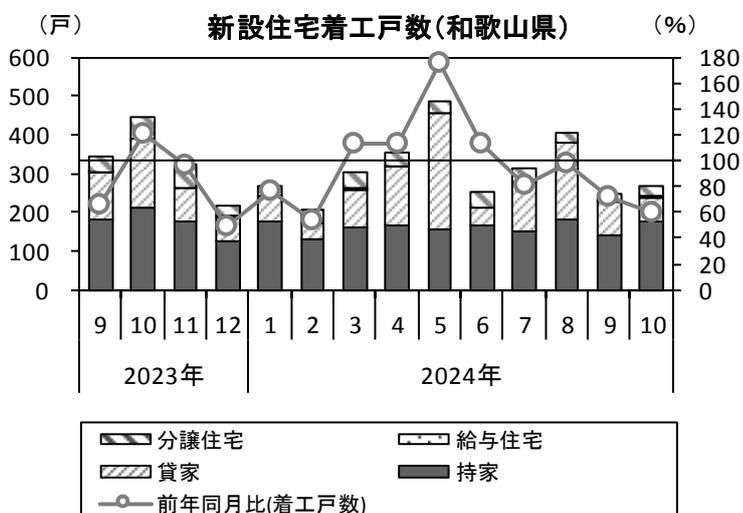
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、前年同月比0.9%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。登録車については、一部自動車メーカーにおける出荷停止（型式認証不正が要因）の影響が緩和に向かう一方で、軽自動車（乗用）の販売台数（10月）は前年同月比9.7%減となっている。前年10月に人気車種（軽自動車）が全面改良され、販売台数が大きく増加しており、今回はその反動減が現れたものと考えられる。



(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（10月）は、前年同月比39.7%減（4か月連続で前年を下回る）。3月以降、着工戸数には持ち直しの動きが見られていたが、再び減少傾向にある。県内においても、建設コストは上昇傾向にあり、「持家」「分譲住宅」を中心に着工戸数が減少している。1月～10月累計での着工戸数を地域別に見ると、橋本市で前年同期比43.4%減、新宮市で同32.9%減、紀の川市で同30.3%減、有田市で同20.0%減となっている。

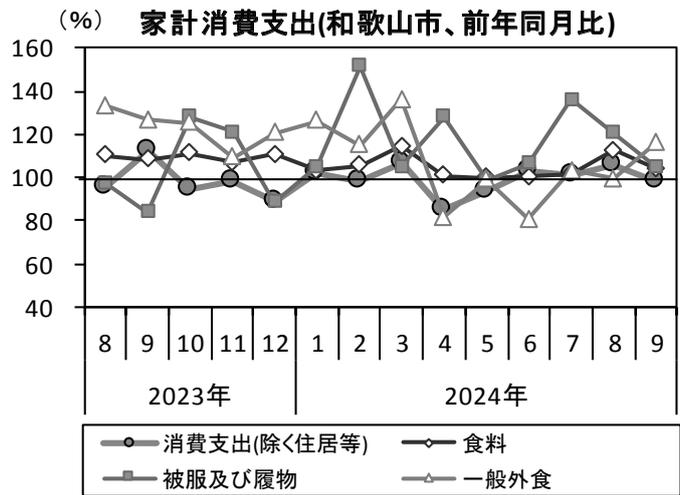


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、9月）は、前年同月比2.1%減となり、4か月ぶりに前年を下回った。授業料・補習教育等の教育費、教養娯楽用耐久財など変動の大きい費目において支出額が大きく減少しており、このことが家計消費支出全体の主な減少要因となった。その他の費目については、食料品価格の上昇が続く中で、食料支出額の増加が続いている。また、宿泊料などの教養娯楽サービスへの支出額が4か月連続で前年を上回った。

※調査対象の世帯が約90と少ない点に留意

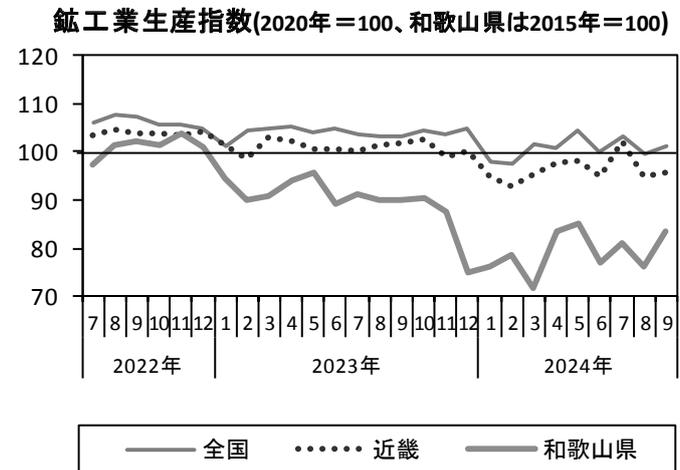


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（9月）は83.4となっており、2か月ぶりに上昇した。ENEOS和歌山製油所が前年10月に操業を停止したことで、化学工業、石油・石炭製品工業の生産指数が大幅に下降し、3月には鉱工業全体で71.7の水準まで低下していた。足下では、主力業種である鉄鋼業で生産指数が上昇しているが、はん用・生産用機械工業の生産指数は低迷が続いている。

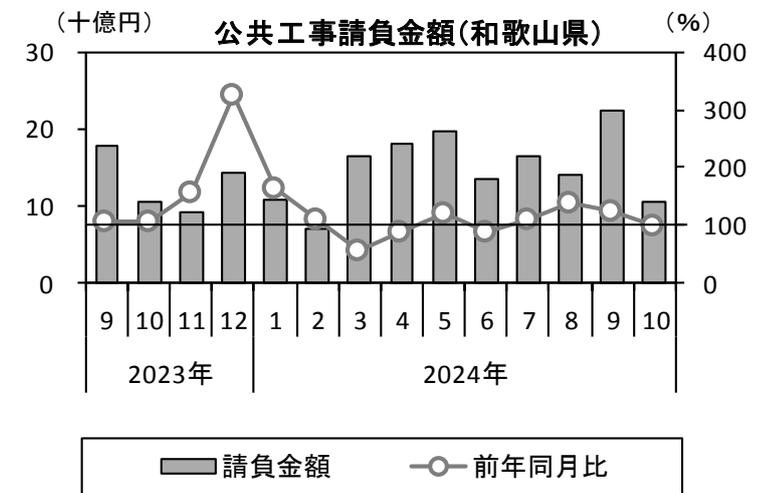
全国については、世界的なIT需要の回復を受けて半導体製造装置等の生産指数が上昇している。また、8月下旬の台風による工場稼働停止の影響がおさまりに、自動車工業で生産指数が上昇した。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、前年同月比1.5%減となり、4か月ぶりに前年を下回った。2021年度以降、減少傾向にある請負金額だが、4月～10月累計での請負金額では、前年同期比7.9%増となっており、下げ止まりの兆しが見られる。地域別では、湯浅地区、橋本地区、岩出地区、和歌山市地区、串本地区などで増加している。その一方で、前年同時期に新庁舎建設関連の大型工事が見られた御坊地区、田辺地区では請負金額が減少している。



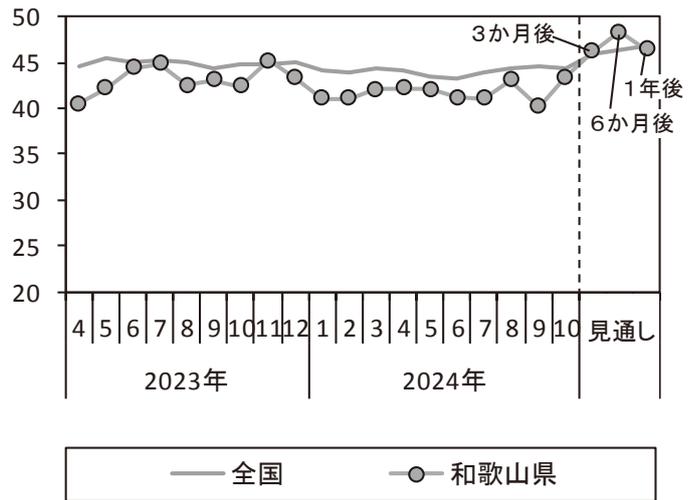
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

10月の景気DIは、2か月ぶりに上昇した。製造業、小売業などで景気DIが大きく上昇。3か月後、6か月後の見通しについても、同業種で景気DIがさらに上昇する模様。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)

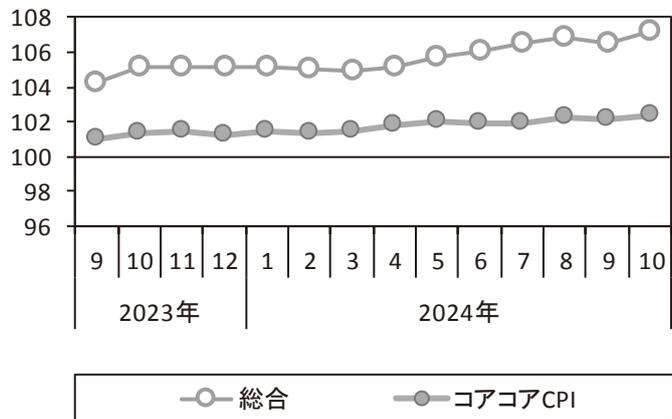


(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(和歌山市、10月)は、総合、コアコアCPI(変動の大きい食料・エネルギーを除く物価指数)ともに、2か月ぶりに上昇した。政府の電気・ガス代の負担軽減策(酷暑乗り切り緊急支援)もあり、エネルギー価格は8月に前月比7.6%の下落となった。ただし、猛暑の影響から生鮮食品の価格が上昇。また、品不足を背景にコメ類、オレンジジュースなどの飲料価格も上昇している。

消費者物価指数(和歌山市、2020年=100)



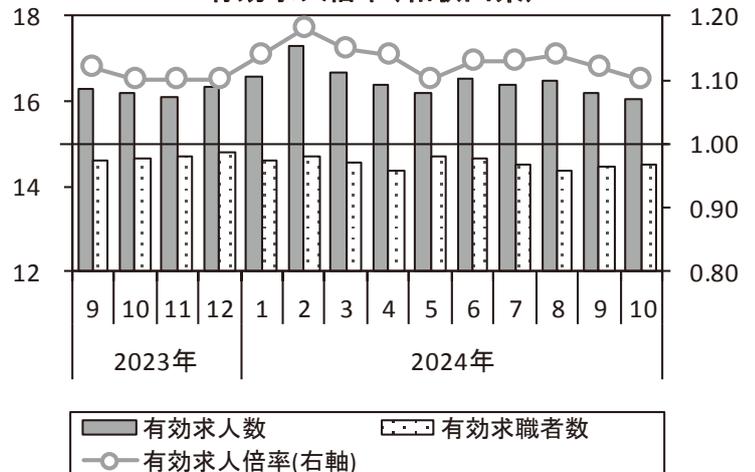
(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(10月)は、前月から0.02ポイント下降し、5か月前の水準(1.10倍)となった。有効求人数が2か月連続で減少する一方で、有効求職者数が2か月連続で増加した。

有効求人倍率は低下しているが、新規求人数は底堅く推移し、事業主都合による離職で求職を始めた人数も前年同月に比べて減少している。雇用保険受給者実人員も前年同月を下回る水準となっており、和歌山労働局では、「雇用情勢は、求人が求職を上回る状況が続いており、緩やかに持ち直しの動きがみられるが、求人の一部に足踏み感がある。引き続き、物価上昇等が雇用に与える影響に注意する必要がある」と判断している。

(千人) 有効求人倍率(和歌山県)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

経済指標

3. 経済指標で見る「大阪府経済」

大阪府経済は、企業活動・雇用環境において
持ち直しの動きに一服感が見られる

大阪府に関する経済指標の概況（10月指標を中心に）

《個人消費》

- 百貨店・スーパー販売額は、増勢基調を維持するも、増加の勢いは鈍化。
- 新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、2か月連続で前年を上回った。
- 新設住宅着工戸数は、1月～10月累計で前年同期比2.3%減となっている。

《企業活動》

- 鉱工業生産指数（季節調整値）は、全国に比べて低い水準にある。
- 公共工事請負金額は、4月～10月累計で前年同期比12.0%増となっている。
- TDB景気DI（10月）は、4か月ぶりに下降。

《その他》

- 消費者物価指数（大阪市、10月）は、総合、コアコアCPIともに上昇
- 有効求人倍率は、2か月連続で上昇。
- 家計消費支出（除く住居等、9月）は、7か月連続で前年を上回った。

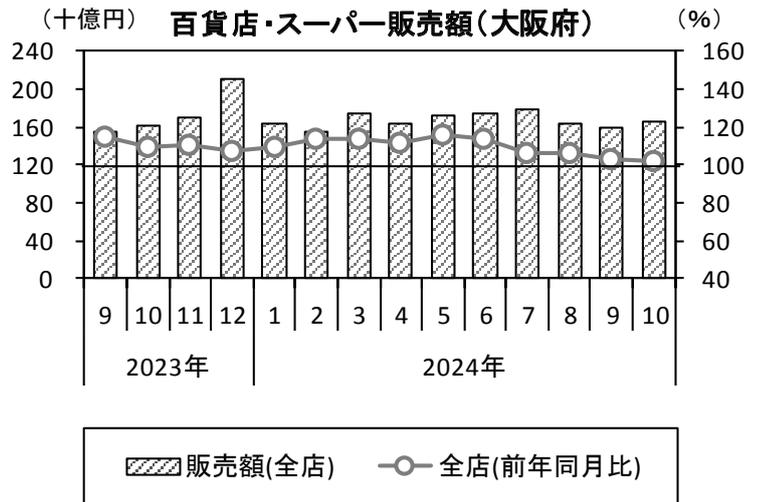
大阪府の経済指標の概況変化（前年同月との比較 ※一部は前月比較）

		2023年				2024年									
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
個人消費	百貨店・スーパー販売額	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○	○
	新設住宅着工戸数	○	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	○	●	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯、大阪市)	○	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	●	●	○	●	●	○	●	○	●	○	●	○	
	公共工事請負金額	○	●	○	○	●	●	●	○	●	○	●	○	●	○
	TDB景気DI ※前月比	●	○	●	○	●	●	○	●	●	●	○	-	○	●
物価	消費者物価(コアコアCPI、大阪市) ※前月比	-	●	○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	●	○
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(注) ○：上昇(増加) -：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

百貨店・スーパー販売額

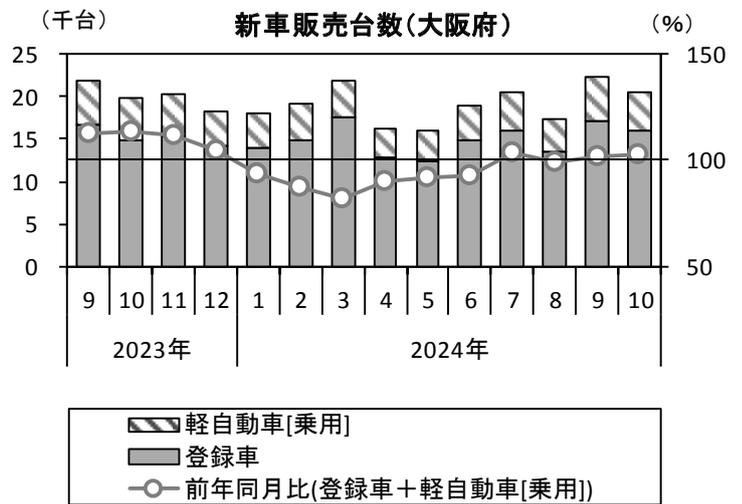
百貨店・スーパー販売額（10月）は、前年同月比2.0%増となり、3年1か月連続で前年を上回った。業態別では、百貨店の販売額が前年同月比3.7%増。訪日外国人による消費が依然として堅調ながら、夏日が続く記録的な高温により秋冬商材が苦戦したことで、販売額の増加率は鈍化した。また、スーパーの販売額は、前年同月比0.5%増とほぼ前年並みの水準となっており、増勢基調に変化が見られる。毎月勤労統計調査（大阪府）によると、物価上昇の影響もあり、実質賃金は低下が続ぎ、家計の節約志向の強まりが懸念される。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数

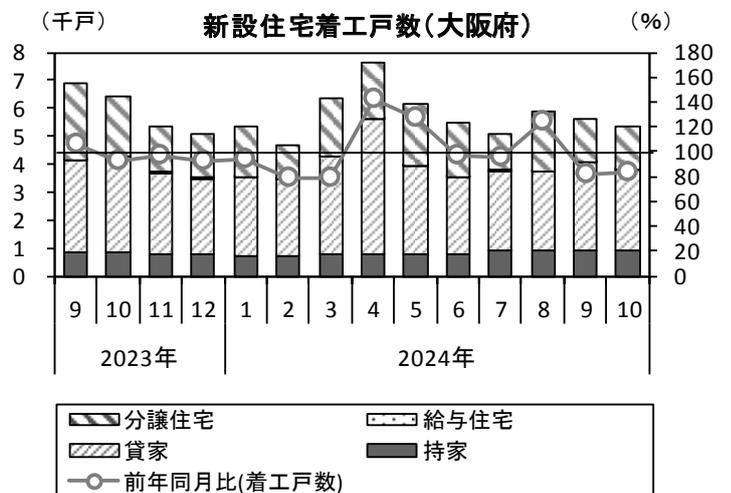
新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、10月）は、前年同月比3.1%増となり、2か月連続で前年を上回った。登録車については、一部の自動車メーカーにおける出荷停止（型式認証不正が要因）の影響が緩和に向かう一方で、軽自動車（乗用）の販売台数（10月）は前年同月比10.3%減となっている。前年10月に人気車種（軽自動車）が全面改良され、販売台数が大きく増加しており、今回はその反動減が現れたものと考えられる。



(資料)一般社団法人 全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに東京自動車販売協会「新車販売台数(登録車)」

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数（10月）は、前年同月比16.7%減となり、2か月連続で前年を下回った。また、1月～10月累計での着工戸数についても、前年同期比2.3%減となっている。「貸家」が同6.6%増となる一方で、「分譲住宅」は同15.6%減となった。全国、近畿においても「分譲住宅」は減少傾向にあり、その要因としては、地価や建設コストの上昇に伴う需要低迷を挙げることができる。

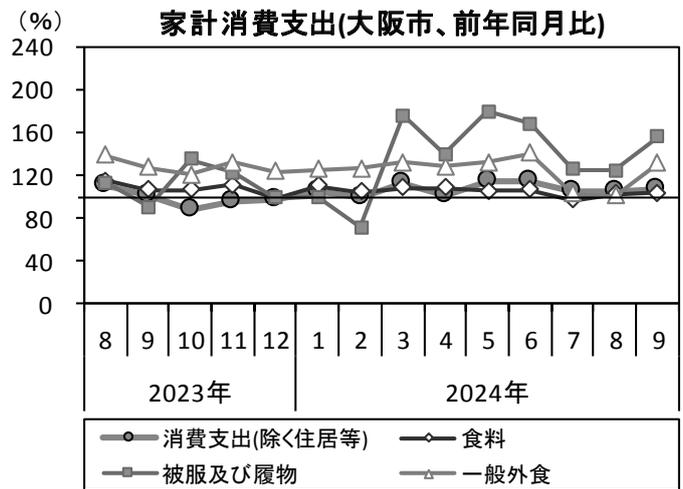


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出

家計消費支出（除く住居等、9月）は、前年同月比6.6%増となり、7か月連続で前年を上回った。パック旅行費、教養娯楽用耐久財などへの支出額が減少したが、外食を含む食料やエアコン等の家庭用耐久財に対する支出額が増加した。その他の費目については、被服及び履物への支出額で増加傾向が見られる。

※調査対象の世帯が約120と少ない点に留意

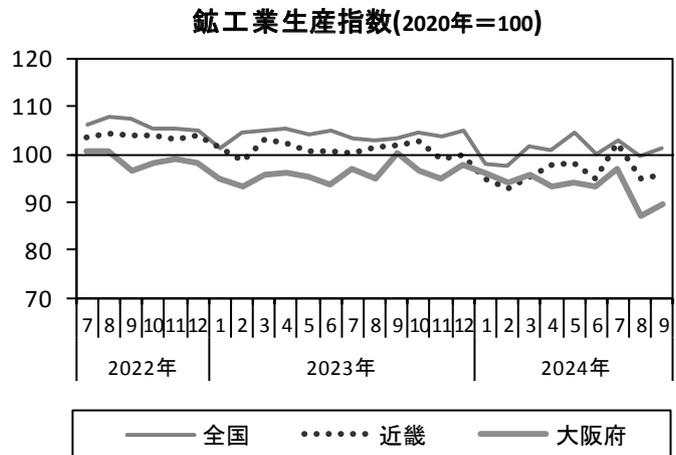


(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

鉱工業生産指数

鉱工業生産指数（9月）は、前月から2.1ポイントの上昇となった。医薬品、合成アセトンなどの化学工業で生産指数が大幅に上昇した。その一方で、主力業種である鉄鋼業、汎用・業務用機械工業、生産用機械工業（ショベル系掘削機械）、食料品工業の生産指数はやや低い水準で推移している。

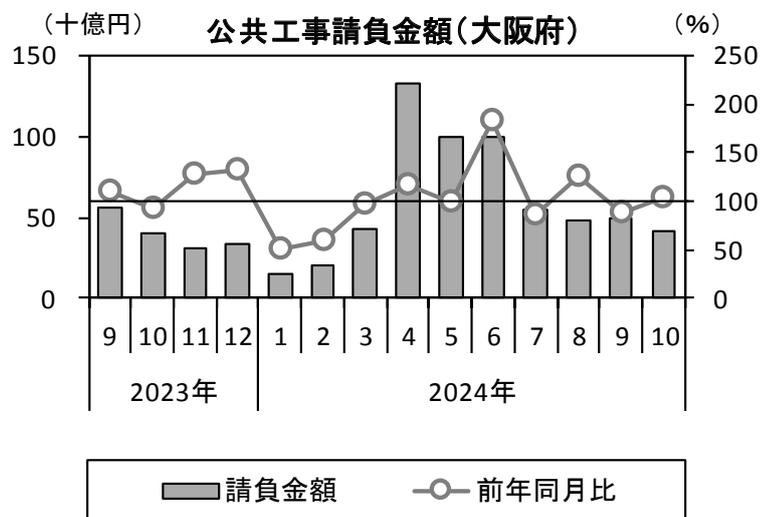
全国については、世界的なIT需要の回復を受けて半導体製造装置等の生産指数が上昇している。また、8月下旬の台風による工場稼働停止の影響がおさまりに、自動車工業で生産指数が上昇した。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」
大阪府「大阪の工業動向」

公共工事請負金額

公共工事請負金額（10月）は、前年同月比3.8%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。4月～10月累計での請負金額は前年同期比12.0%増と好調で、2021年度以降の増加基調が継続している。発注者別に4月～10月累計での請負金額を見ると、国、府、府内市町村発注の請負金額がいずれも前年同期を上回っている。



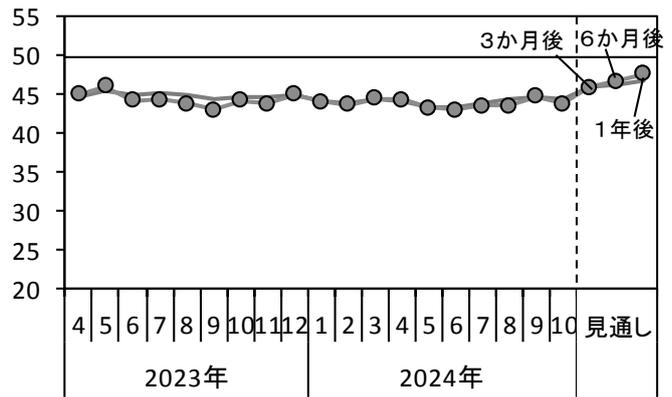
(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

景況感 (TDB 景気 DI)

TDB景気DIは、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

10月の景気DIは前月から0.8ポイント下降(下降は4か月ぶり)。訪日外国人客増加もあり、サービス業で景気DIは高い水準にあるが、個人消費には弱さが見られ、小売業の景気DIは低い水準で推移している。また、帝国データバンクは景気DIの下降要因として、「円安による採算悪化懸念」も挙げている。

TDB景気DI(判断の分れ目は50)

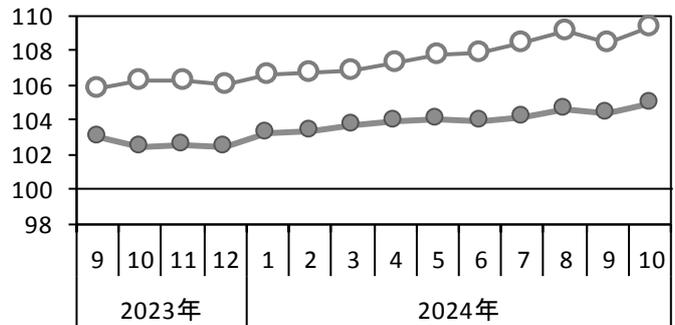


(資料) (株)帝国データバンク

消費者物価指数

消費者物価指数(大阪市、10月)について、総合、コアコアCPI(変動の大きい食料・エネルギーを除く物価指数)ともに、2か月ぶりに上昇した。政府の電気・ガス代の負担軽減策(酷暑乗り切り緊急支援)もあり、エネルギー価格は8月に前月比9.7%の下落となった。ただし、猛暑の影響から生鮮食品の価格が上昇。また、品不足を背景にコメ類、オレンジジュースなどの飲料価格も上昇している。

消費者物価指数(大阪市、2020年=100)

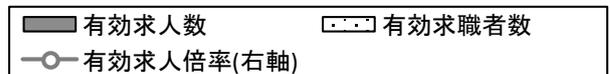
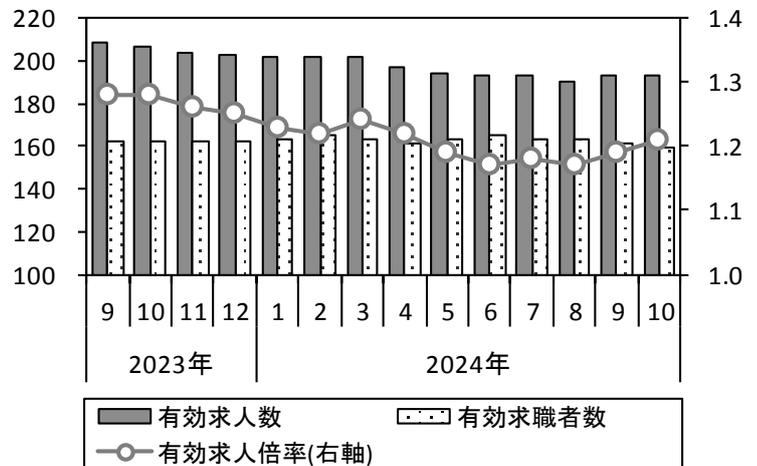


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

有効求人倍率

有効求人倍率(10月)は、前月から0.02ポイント上昇し1.21倍(上昇は2か月連続)。有効求職者数が減少する中で、有効求人数が2か月連続で増加した。ただし、新規求人数は2年2か月連続で前年を下回っており、建設業、運輸業・郵便業、生活関連サービス・娯楽業など幅広い業種で新規求人数が減少傾向にある。このような状況について、大阪労働局は「現在の雇用失業情勢は、改善の動きが弱まっている」と判断している。

(千人) 有効求人倍率(大阪府)



(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」